石内公民館活動　ふる里石内の史跡・遺跡

ふる里めぐり

入江の波打ち際の想像図。沖では最新鋭の木造船で漁をしています。
稲作が始まった縄文時代は野山の狩猟で食べ物に困る事もなく、貝も豊富でした。
古代人は手分けして採取した食料を高台の居住地に持って帰ったのでしょうか
上沖周辺には大規模な住居跡が発掘されています。
すぐ前の飛び石には足跡が…あなたは古代人？…?!

絵と文:窪田君男

ふる里石内の史跡・遺跡

百石（ひゃくいし）とその周辺の史跡

湯戸・下沖地区土地区画整理事業の推移と史跡保存

○郷土誌にみる史跡・百石

○百石周辺の遺跡群・神社・文化

（石内村和田貝塚・松丸神社・新宮神社・貴船神社）

史跡・百石の説明板と
西法寺川に架かる百石橋

百石の一部は、現在西法寺川右岸の法面に周辺から集められ埋設保存されています。

史跡「百石」の保存活動と、関連する土地区画整理事業の資料などを整理した小冊子です。

石内の歴史探求講座

石内をもっと知ろう会

【区画整理事業前の西法寺川周辺と百石】

区画整理事業前の史跡・百石

昔はふな・はや・うなぎ・やまめが生息し、夏になるとホタルが乱舞していた西法寺川。河川改修・農業水路改良工事で掘り起こされた大きな石15個が川沿いの道に埋設保存されていました。

この石こそが「百石」で、古代石内が海だったころの名残だと言われています。入江を渡るために、数多くの石が並べられていたことが古文書に伝わっています。

2級河川石内川2号橋（旧平原橋）

この地の字名が「平原（ひらばら）」

西法寺川と石内川合流点の水門

【郷土誌にみる史跡・百石（ひゃくいし）】

○縄文時代には、湯戸辺りまで海水が入り込んでいた

沖積世（ちゅうせきせい）に入って海水面は急速に上昇し、縄文時代前期には最も高くなりました。

伝説では高度十二mを示す石内の湯戸あたりまで海が入り込んでいたと言われています。

縄文、弥生時代の遺跡が五日市低地帯に乏しく、周辺の高い場所に多いのは、当時海面が高く石内から下河内にかけて湾入りしていたことを裏付けるものと考えられています。

【五日市町誌上巻】

※縄文時代の期間には諸説ありますが、今から約一万六千五百年前から約三千年前と考えられています。

○渡りの飛び石と石仏

石内村は、往古は郷中川下まで入江にて潮満ち込み川幅広まり、渡りの飛び石数ありし由、依って怪我人など間々有るにつき石仏を建立いたしたるもの今尚存す。今に湯戸に字百石という処り。

【石内村国郡志下調帖】

○百石の石仏（ひゃくいしのいしぼとけ）

湯戸百石にありしと伝われど詳かなず。友重氏田地岸の榊中に青石あり、土地の人の談に依れば、或は之ならんかとも思はる。

（原文のまま）

【石内村村誌】

○百石（ひゃくいし）

湯戸に今、百石という小字がある。昔石内村から浅野藩に出した古文書に「往古当村の郷中よりしもは入江で潮満込み、これに注ぐ川幅広く、渡るに数百の飛石あり。為に怪我人など出て石仏を建つ。この石仏は今もあり。

このあたりの地名を百石と呼ぶ」と現在バス停湯戸と下湯戸との間の県道の両側の丘あたりが小字百石である。

数千年前の瀬戸内海の水位が、今より数メートルも高かった証拠が近時知られたので、当時湯戸あたりまで海であっても不思議ではない。

入江の海岸や石内川、笹利川、西法寺川（三の峠（たお）を水源）は、恐らく自然のままで、川幅が広く、湯戸から和田に渡るのに飛び石が必要だったのであろう。

【ふるさとめぐり】

○村名（そんめい）

石内村は、往古石道村と称へし由、西国太平記に見ゆ。尚厳島古文書にもあり。寛文年間石内村と改称せり。右両名共石山続き谷合石道の故を以って斯く名付けしものの如し。

○石内村の沿革（いしうちむらのえんかく）

本村は、石内村と称し往古は本村郷中川下まで入江にて潮満込み川幅広まり渡りの飛石数百有りし由、今に湯戸に字百石といふ所あり。

旧藩時代は浅野越前殿の知行所にして廃藩置県後明治五年（紀元二、五三二）始めて大小区を定められ第四区第二小区に属し明治二十二年（二五四九）上保井田村及び口和田村の各一部を分合し以って現今に至る。

（原文のまま）

【石内村誌】

【所　感】

この石内村（現:佐伯区石内）は、この古文書などに記されており　この地に古くから人が住みイネ作りが始まり浜辺で魚貝類を採り豊かな自然の中で狩猟をしながら…静かに人の営みが行われ続けて、現在に至ったのです。周辺には、貴重な遺跡群・文化財が保存・継承されております。

縁あってこの地に住み立ち寄り肌で触れ・学び・遠い古代のロマンに浸って下さい。貴重な文化財等は地区・地域の財産です。破壊や手を加えることは絶対にしないで、貴重な有形・無形文化財を保護・保全しながら後世に伝承する義務も我々には課せられていることを忘れないで下さい。

平成28年11月25日

石内をもっと知ろう会　　会員　窪田君男

湯戸・下沖地区土地区画整理事業

造成工事着手2012年10月6日（撮影：窪田君男）

【百石（ひゃくいし）周辺の遺跡群・神社・文化】

※各資料から転載

石内村和田貝塚と出土物

高井より約一・六㎞北にあり、この付近の大地は侵食の渓谷・丘陵を形成し、なかんずく一半島丘陵はその北に田圃がつながって昔時の海湾を示しその南に渓谷があって居住の適所である。この丘陵北方傾斜面八〇ｍの地点に貝塚の存在を認める。貝類は牡蠣殻が多く蛤がこれにつぎ、文殊白貝・川合貝・さざえ類である。蛎・蛤は浅海にいて、この貝塚は沿岸遠浅時代に作成されたものであろう。

（五日市町誌・辰野誠次　資料から抜粋原文転写）

【松丸神社】湯戸・平原

湯戸・平原・石内川の兼丸橋の東約一〇〇ｍの山の麓にあった。古く湯戸地区にあった旧保井田村の飛地の松丸・兼丸等の小字の住民の氏神であった。明治一七年これらの飛地が石内村に移され、杜は石内の村杜になった。素戔嗚命（すさのおの）・櫛名田比売命（くしなだひめの）・大穴牟遅命（おおむなちの）を祭った。

【新宮神社】上沖・袖ヶ谷

祭神　伊弉諾命（いざなぎの）　伊弉冉命（いざなみの）

由緒　亀山新宮大明神とも称され、石内村の村社であった。上沖・下沖・笹利・湯戸の氏神として祀られていた。元文元年（一七三六）の棟札が合祀された臼山八幡神社に残っている。

【貴船神社】和田・穴が迫（貴船神社にまつわる資料から）

○湯戸の獅子舞

家庭の悪魔祓いの行事として、古くから獅子舞を各家庭に巡回していましたが、戦争が激しくなった昭和十九年ごろから中断していました。しかし、昭和四十七年に地区の老人会が中心になって二十八年ぶりに復活し、昭和五十三年に若い人達が保存会を結成し、お年寄りから若い人へ、獅子舞や太鼓のたたき方などのコツを受け継いでいます。

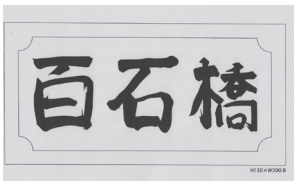
獅子は貴船神社所蔵のもので、古い歴史あるものです。大切に保存継承して後世に受け継ぎましょう。

○口和田

古くは和田と称したが、郡内山間部に同名の和田村が成立したことから山間部の村を奥和田、当地を口和田と称するようになったという（芸藩通志）。また、満潮時にはこのあたりまで潮が入り込み入り江となったという（八幡村誌）。武田ヶ城（東城家）と呼ぶ土塁跡。口和田は江戸期から明治二十二年の村名。貴船神社は神武天皇東征の途次の着眼地とする伝承があるが芸藩通志では否定される。明治八年に利松村・高井村と連合して広業館が開校（八幡村誌）。明治十三年に当村の一部、上和田が石内村に編入。明治二十二年に八幡村となる。

【百石橋と平原橋】

百石橋（ひゃくいしばし）**と説明板**　右岸に百石の一部である15個ほどの石が移設保存されました。



橋名板の書（説明）

新しく建造された橋の命名は、多くの場合その場所の地名使用が多いようです。

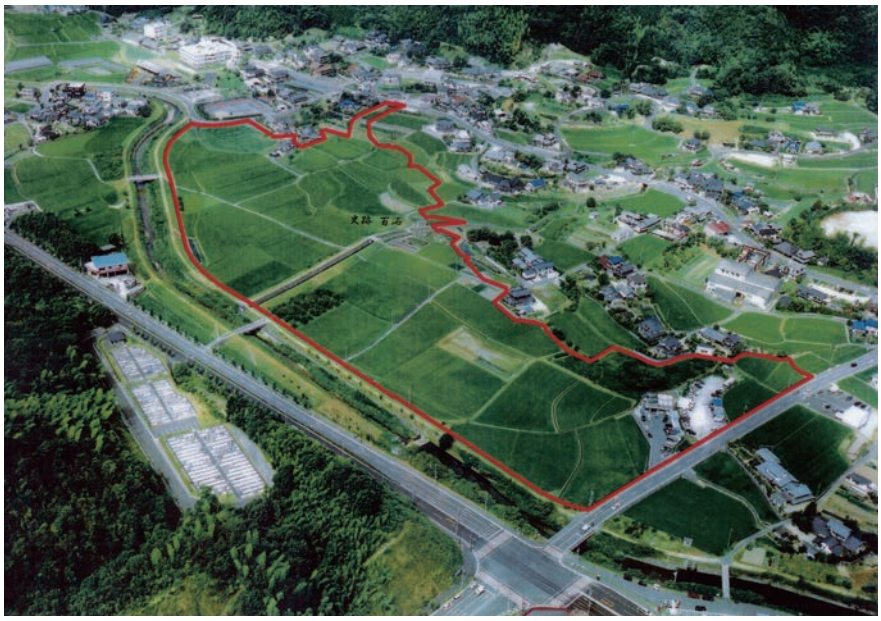
西法寺川に架かる百石橋は、区画整理事業で湯戸～下沖までの主要メイン道路として交通緩和を目的に新設されたものです。

この地の関係地権者の中から事業に最後まで献身的に重責を果たし事業を完成された「石内湯戸下沖土地管理株式会社」代表取締役 窪田正義氏にお願いした書を特殊加工転写した橋名板です。百石の説明板と共に事業のシンボルそして記念碑としても永く残ります。

平原橋（ひらばらばし）　50m下流の水門近くに橋があります。以前の河川改修工事で架け替えられた際、何故か2号橋と名付けられ、この地の地名で親しまれた「平原橋」が消えてしまっていました。新しくできた橋は「平原橋」と命名され名称が復活しました。

【湯戸・下沖地区土地区画整理事業完成までの沿革】

時　期	内　容
平成10年 〜 平成15年	数社の コンサルタント・ ディベロッパー・ 不動産屋より 出店の意向と打診も 地権者の意向集約を行う リーダー不足により 実現に至らず
【平成15年】	
10月23日	ホームセンターコーナン出店意向
10月24日	コーナン商事役員現地調査
10月25日	本社出店決定指示
12月17日	現地調査（専務他）
12月26日	出店要請書作成準備完了
【平成16年】	
3月10日	ｷｰﾃﾅﾝﾄ ｺｰﾅﾝ商事役員現地調査
7月21日	第1回地権者説明会
8月　6日	区画整理事業 説明会
12月26日	第1回総会
12月26日	準備組合設立総会
12月26日	組合（法人組織）設立
【平成17年】	
6月23日	出店要望書提出
7月30日	第2回総会
【平成18年】	細部の調整
【平成19年】	細部の調整
【平成20年】	
2月　2日	第3回総会
【平成21年】	
12月20日	第4回総会
【平成22年】	
5月30日	第5回総会
7月　6日	農地法に基づく届け出
7月　6日	都市計画法に基づく申請
9月10日	第6回総会
9月20日	換地作業・測量開始
【平成23年】	
3月19日	第7回総会
【平成24年】	
（日付不詳）	文化財（試掘）調査
6月　7日	建築許可申請・起工式
9月24日	造成工事着工
	ホームセンター棟着工
	マックスバリュー棟着工
【平成25年】	
（日付不詳）	ホームセンター棟建物完成
10月30日	出店・賃貸契約締結
10月30日	ホームセンター棟開店
（日付不詳）	マックスバリュー棟建物完成
12月10日	マックスバリュー開店



工事着手前

【ある古老たちの話】　語り:（当時6年生の中谷正之）さん平成20年2月24日（92歳）

区画整理事業の地区は石内川の河川改修が行われる前には、台風時期には堤防を越えて洪水が頻繁に起きておりました。

大正15年9月1日の大洪水は、平原橋・兼丸橋・和田橋・西法寺川付近のいたる所が決壊し石内・八幡村に甚大な被害が発生し、復旧には古江・井口方面から大勢の応援部隊がやってこられ何か月も掛って復旧したそうです。土砂を「モッコ（土砂を運ぶ道具）」を2人で担ぎ運ぶ手作業の人海戦術だった。元気を出すため太鼓を叩いて勇気づけていたのを思い出す。

※当時の石内村の村長は、湯戸出身の「紙野 和市」氏

工事完了（平成25年11月）

事業費: 約20億円　（区画整理＋工事費）

航空写真撮影・提供:（株）大林組 広島支店

【当事業の位置づけと役割】　平成29年1月　区画整理事業時の世話役　窪田正義

平成16年関西を起点にホームセンターを核店舗に大型開発を繰り広げるコーナン商事から出店意向を正式に申し込まれ73名の地権者の協力のもと全員の合意を得て事業が無事に完成の運びとなりました。

私の理想は、事業の達成を使命と信念に、形のない物から地域に求められている施設を造ることを目標に努力した。この商業施設が核となり地域が面的理想の都市機能充実に向う起爆剤にして欲しいと願っております。

【「石内のゆる～いきゃら」いよいよ決定！】

「石内のゆる～いきゃら」募集には、28点のキャラクターの応募をいただきました。
「第70回石内地区文化祭・公民館まつり」での総選挙の結果、159票の投票があり、その中から上位10作品を選出しました。石内公民館運営委員会にて厳選の結果、「石内のゆる～いきゃら」優秀賞には、「シダレン」が選ばれました。
惜しくも優秀賞を逃した4作品も、公民館や地域の広報誌などで活用していきますので、応援をお願いします！（「石内公民館だより」掲載記事を転載）

いしそう

いしうちっこ

いしうっきー

【編集後記】

上沖の新宮山、長尾城址、下中の有井城跡、丘陵地は古代人の住居地、中世の山城、現在では山畑、となっている。石内では弥生時代、続く古墳時代の遺跡が、かなり沢山発見されています。
これらの遺跡には古代人の住居跡や家の柱穴、土器、貝塚などが見られた。

弥生時代、日本にイネが大陸から伝わり、それで人々は平地に水田を造り、近くの丘陵に居住した。石内ではこの時代、新宮山を中心に周辺の和田、有井、下中、下沖、上沖、笹利、湯戸など、現在の石内の南半の石内川、笹利川、西法寺川沿いにイネ作りがなされたようである。
なお、その時期は、遺跡から出土した弥生式土器の特徴から弥生時代の終わりころとされている。続く古墳時代では、上沖古墳、湯戸古墳、などがある。古墳時代の遺跡からは土師器、須恵器など、この時代特有の土器が出土している。

【石内公民館だより 連載・ふる里めぐり】石内のあけぼの　辰野誠次・文
原文のまま転載

平成28年11月23日

石内をもっと知ろう会　　会長　西本忠良

石内公民館活動 ふる里石内の史跡・遺跡
ふる里めぐり
百石とその周辺の史跡

企画･発行：石内の歴史探求講座「石内をもっと知ろう会」
発 行 日 ：平成28年10月
編集・執筆：窪田君男
連 絡 先 ：〒731-5102 広島市佐伯区五日市町石内6902-4